



# 日本女医学会誌

復刊第 192 号  
2007 年 10 月 25 日発行  
題字 吉岡彌生

## 巻頭言

# 女性だからできる細やかな心遣いの事業を

副会長 鹿田儀子

記録を更新する猛暑も過ぎ、秋風を感じる季節になりました。皆様には秋のご多忙な日々を迎え、ご活躍のことと存じます。

第 21 回参議院選挙から政治も変わり始めようとしています。医療制度に関しては、良い方向に向かうのでしょうか。気になることが多いこの頃です。少子化がますます進み、高齢者が増えるなど、多くの問題を抱える介護保険も、私たちが積極的にかわらなければならぬと考えます。

言うまでもなく、医療は日々進歩し専門化していますが、機械的医療が主になり、患者様側からは決して信頼度が高く、また、良い医療ばかりとは言えない事が多いと思います。

医師としての仕事は技術は勿論ですが、患者様側にとっての心のケアが、医術に増して大事だと思います。この事を考えた時、私たち女医は、本質的に、女性ならではの細やかな心遣いのできる良い面を持って

いると思います。その特性を生かし、心からの言葉で高齢の方に接し、また、若い保護者には、その立場に立ち、助言をすることができます。疾患を診るのではなく、患者様を診ることの大切さを考えて欲しいこの頃です。

循環器に問題のある中年の女性が、心カテーテル検査を受けることになり、その不安で相談に来院されました。検査をする医師は、「早速検査をしましょう。予約をしてください」と言い、検査の説明の書いてある用紙を渡されたそうです。患者様は不安がいっぱいで、2～3日悩んだ後相談にられました。

安全であると思われる検査でも患者様からすれば不安が多くあるでしょう。多忙な医師は時間がないかもしれませんが、このようなことはあってはならないと思います。患者様からは不安があってもなかなか多忙な医師に再度説明を求めることはできにくいと思います。セカンドオピニオンの話をして、他の循環

## 日本女医学会誌 (第192号) もくじ

<b>〈巻頭言〉</b> 女性だからできる細やかな心遣いの事業を 鹿田儀子 (1)	学術部報告 女性医師キャリア継続のために ガーナ (MWIA 2007) に出席して 第 27 回国際女医学会に参加して	山本繡子 (11) 津田喬子 (12) 松信恵美子 (13) 佐藤博子 (15)
<b>〈第 26 回 日本女医会学術研究助成報告〉</b> 現代の女子医学生を求めるライフデザインと リプロダクティブヘルスについての検討 上田嘉代子 (2)	がん体験者の登山 私の好きな食べ物屋さん④～昼のにぎり鮎	橋本しをり (16) 二村美美江 (17)
心筋細胞の Sphingosine1-Phosphate 受容体による カルシウムイオン代謝への影響 塚田弥生 (5)	<b>〈支部だより〉</b> 心をひとつに大阪支部の活性化を <b>〈私の大学〉</b> 群馬大学 <b>〈書評〉</b>	野崎京子 (19) 安部由美子 (19)
関節軟骨における血管新生制御因子 ANGPTL-4 の発現機構および機能解析 増子佳世 (6)	『どうしよう……子どもの救急』 『臨床医が知っておきたい女性の診かたのエッセンス』	保科 清 (20) 大坪公子 (20)
<b>〈委員会報告〉</b> 子育て委員会 浅見豊子 (7) 長寿社会福祉委員会 樋渡奈奈子 (7)	理事会議事録 (6～7月) 会員動静 編集後記	(21) (24) (24)
<b>〈第 27 回国際女医学会〉</b> 平敷淳子先生 国際女医会会長ご就任をお祝い申し上げます 小田泰子 (9)	Participation, Communication and Visibility 平敷淳子 (10)	
第 27 回 MWIA ガーナにナショナルコーディネーター (NC) として出席して 内潟安子 (10)		

日本女医学会のホームページが変わりました！ さらに充実して大変身 <http://www.jmwa.or.jp>

器専門医を紹介し、心カテーテル検査はしないで大丈夫との結果になり、とても喜ばれました。ムンテラがいかに大切か、また患者様側にたって考えることがいかに大事か、改めて心した一件でした。

今、かかりつけ医の問題が日本医師会でも言われています。身近にかかりつけ医を持つことで、患者様の悩み等が少しでも解決でき、医療が患者様の立場でできるように進むことを願っています。

女医会の事業であるプロジェクトも着々と成果をあげております。女医だからできる細やかな心遣いの事業を、これからも継続していきたいと念じております。しかし、会員の皆様のご指導とご協力がなくてはできません。これからも1人でも多くの女医の方が賛同してくださり、有意義な事業が進みますようお願いいたします。

## 第26回 日本女医会学術研究助成報告

### 学術研究助成報告①

### 現代の女子医学生の求める ライフデザインと リプロダクティブヘルス についての検討

新宿支部 上田嘉代子

第25回日本女医会学術研究助成を賜りました課題の研究経過報告をさせていただきます。

#### 【研究目的】

近年の我が国における医師不足問題においては、女性医師の離職が原因の一つであると言われ、その一番の原因は出産・育児であることがわかっており、女性医師4割時代の到来を目前に、女性医師・研究者の育成・再教育等の様々なプロジェクトが立ち上がっている。現行のプロジェクトをより効果的にするためには将来医師となる女子医学生が、自らのライフデザインやリプロダクティブヘルスを現時点でどのように考えているか、また、ニーズはどこにあるのかを知ることは極めて重要と考えられるが、女子医学生を対象とした調査は少ないため、今回、生殖年齢にあたる女子医学生にアンケート調査を行い、リプロダクティブヘルスについての知識や人生設計についての考えを分析する。

#### 【方法】

平成18年11月から1月にかけてアンケート調査を行った。

対象は東京都内の女子医学生有志で、アンケート調査に先立ち、研究者の所属大学である東京女子医大の倫理委員会において内容審査を受け、了承を得た。各学年別に、授業の前後に時間を割いてもらい、

調査担当者が、対象者にアンケートの趣旨を説明し、その場で回答してもらった。直接説明できない対象者には、趣旨説明書とアンケート用紙を同封した封筒に、記入後、封をして投函してもらう方法をとった。質問は以下の内容とした。

- ①在学年、年齢、結婚の有無などによる回答者のプロフィールを尋ねた。
- ②医大生であり、かつ生殖年齢女性であることで起こる重大なライフイベントに対し、どの程度の明確な計画や希望を持っているかについて具体的に質問した。  
人生の計画について、「a. 完璧に成し遂げたい」「b. 計画に近ければよい」「c. 計画を立てていない」の三つのどれに該当するかを“結婚の時期”“結婚相手の条件”“子供の有無・数”“結婚・出産後の就労”の各項目で問い、また、具体的な希望を選択形式で尋ねた。
- ③女性医師としてのロールモデルが少ない女子医学生の在学中に抱く、現在または将来への不安について具体的な事項を質問した。「a. 非常に不安である」「b. やや不安である」「c. あまり不安でない」「d. 全く不安でない」の4つのどれに該当するかを“国試などの重要な試験”“クラブや友人関係”“健康”“進路・仕事”“恋愛”“結婚”“妊娠・出産”“育児”“家庭”の9項目について質問し、具体的な記載も求めた。
- ④生殖年齢女性のリプロダクティブヘルス（避妊や性感染症予防）に有用な避妊方法についての認知度の把握のために○×式で回答を求めた。また、性についてどのような知識を得たいのか具体的に質問した。この質問の一部は、平成12年度厚生省科学研究、特別研究事業として産業医大公衆衛生学教室が行った“北九州市における

高校生・大学生の性行動・意識調査”の結果と比較できるものとした。

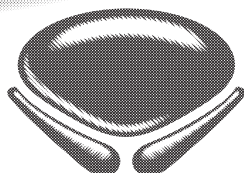
### 【結果】

- ①アンケートの回収数は、学年別に、1年生90名、2年生58名、3年生65名、4年生75名、5年生82名、6年生91名、総数461名だった。そのうち、既婚者は7名(1.5%)、年齢は18～26歳までが96.1%を占めている。
- ②女子医学生は在学中にある程度のライフプランを持つ者が約70%あり、特に結婚・出産後の就労に関しては約80%の学生が持っている。また、人生のライフプランの中で“結婚・出産後の就労”が他のライフイベントに比べ、“計画通りに成し遂げたい”と考えている人の割合が最も多かった(15%)。1年生と6年生の比較では、ライフプランを持つ割合に差はなく、むしろ1年生のほうが“計画通りに成し遂げたい”とする希望数が多かった。
- ③ライフイベントに対する不安については、1年生と6年生を比較すると、いずれも、国家試験に対する不安が最も強く、“クラブや友人関係”、

“健康”に対する不安が最も少なかったが、各学年の差し迫った事柄(6年なら進路・仕事、妊娠・出産・育児、1年なら恋愛やクラブ・友人関係)に比較的不安が高い傾向があった。

- ④結婚は“ローテート終了後”、出産は、“入局する科を選び、ある程度自信がついてから”が望む時期として最も多かった(いずれも約35%)が、学生時代を望んでいるのは極少数(6%)であった。在学中に出産・育児を経験している人の中では、経験することで自分の成長を実感する意見や、勉強や友人との付き合いに苦労している意見が多く、アンケート調査中に、同じ立場の人たちとの情報交換の場が欲しいと直接調査員に希望する人もいたため、学生部長の許可を得て何人かの育児中の学生に連絡をとったり、女医会主催の女性医師のサポートに関する講演会への出席を勧める連絡も取ったりした。
- ⑤全体の約80%が子供を“計画的に”“是非”持ちたいと望んでおり、約20%は“二人以上子供を持ちたい”希望を持っている。結婚・出産後の就労については、約50%の人が“結婚・出産も考慮して科を選択したい”と考えてい

 astellas



過活動膀胱治療剤(コハク酸ソリフェナシン錠) 薬価基準収載

**ベシケア<sup>®</sup>錠** 2.5mg  
5mg

指定医薬品、処方せん医薬品  
(注意—医師等の処方せんにより使用すること)

**Vesicare<sup>®</sup>**

■「効能・効果」「用法・用量」「禁忌を含む使用上の注意」等につきましては、製品添付文書をご参照ください。

製造販売 **アステラス製薬株式会社**  
東京都板橋区蓮根3-17-1

[資料請求先] 本社/東京都中央区日本橋本町2-3-11

るが、“相手のキャリアを優先する”と考える人は10%に過ぎない。“可能なら夫にも育児休暇をとって欲しい”(25%)“子育ては女性に適しており一時的にでも休職せざるをえない”(35%)“家事・育児はできるだけ自分がしたい”(34%)“家事・育児の協力者を雇用したい”(30%)と考える人は多数派ではなく、“夫以外の親しい人(親など)”や“保育所・学童保育”に子育て援助を希望する人が55%～60%に達している。保育施設の充実が早急に望まれる。

⑥配偶者として大切な条件として最も優先順位の高い要素は“性格”で、次に“何でも話し合え、自分を理解しようとしてくれる姿勢”“自分の仕事への理解と協力”“趣味や価値観の一致”“相手の職業”と続き、“家事育児への協力”は3～4番目にあげる人が多かったが、必ずしも大きな要素とはとらえられていなかった。

⑦リプロダクティブヘルスに関する知識について1年生と6年生との正答数の比較では、正答率が低い設問は同じだったが、完全正答数は6年生が1年生の倍以上高く、6年間でリプロダクティブヘルスの知識が確立されていくことが分

かったが、年齢を考えるともっと早い学年での確実な知識が与えられることが望まれる。性に関する知識を得るのは“高校時代までの性教育で”が最も多く、“友人・先輩から”“本から”“医療関係者から”がそれに次いだ。次に“テレビ・ビデオ”“雑誌”“親”“インターネット”の順で、マスコミ関係からの情報にはあまり依存していない。厚生労働省調査の一般の大学生と比較すると、“友人から”得る割合が多いのは共通しているが、テレビよりは本や医療関係者から得るのが多いことは、医学生としての特徴である。

“高校生までの性教育”を挙げた人の割合を各学年で出してみると、1～3年までは80%前後、4～5年は70%前後、6年生は56%と学年が下がるにつれて増加傾向にあることから、年々高校までの性教育が広範囲に実施されつつあることが推測される。しかし、そこから正しい知識が得られているかは、1年生と6年生の正答数の比較で見るとむしろ逆で、6年生の正答数が多く、6年生全体の正答率も90%以上と高かったが、それは4年から6年で多数挙げられた“本”から、つまり医師国家試験までの自主



満 **1** 歳。

★「効能又は効果」「用法及び用量」「禁忌を含む使用上の注意」等については現品添付文書をご参照ください。

★資料は当社医薬情報担当者にご請求ください。

**抗血小板剤**

指定医薬品 処方せん医薬品 (注意—医師等の処方せんにより使用すること)

**プラビックス®** 75mg 錠 25mg

硫酸クロピドグレル製剤 ●薬価基準収載

製造販売:

**サノフィ・アベンティス株式会社**

〒163-1488 東京都新宿区西新宿三丁目20番2号

プラビックス情報サイト

<http://www.plavix.jp/>



**sanofi aventis**

Because health matters

2007年5月作成 JP.CLO.07.04.16

勉強で、正しい知識が得られたことが推察される。コンドームやOCの認知度は95%以上あるが、各論で、コンドームについて最も正答率が低かった質問は、“コンドームが一番避妊効果が高い”(×)で、全体で約32%の不正解があった。“コンドームに男性用と女性用がある”こと(正答率70%)も正答率が低かった。但し、1年生の不正解率が50%であるのに比し、6年生は9%だった。OCに関しては、昨年、禁忌事項から除かれた“子宮筋腫があってもOCは服用可能である”ことを知る学生は50%に満たなかった。OCを今後使用したいと考えている人(23%)より、使用しないと答えた割合(37%)が多く、その理由として、“副作用が心配”、“毎日の服用が煩わしい”、“医師の診察が必要”が主なものであった。一方、服用したいとする人は、“避妊効果が高い”“女性自身の意思で使用できる”“性交時に避妊を意識しないでもいい”の順に理由が多かった。すでにピルを服用している人は2.5%と全国の服用率に近い割合だった。

緊急避妊法の認知度も84%あるが、“よく知っている人”は12%に留まった。性感染症は、トリコモナス、尖圭コンジローマ、毛じらみの認知度が低かった。“性感染症にかかっているとHIVに感染しやすくなる”(○; 正答率60%)“HIV/AIDSの検査は、病院に行かないとできない”(×; 正答率76%)と低かった。これは北九州市の学生と同じ傾向だった。性に関してさらに欲しい情報として、50%近い割合で“避妊法について”と“性感染症とその予防法について”“結婚・離婚について”を挙げた。

先輩の医学生や女性医師に聞いてみたいことは、結婚や相手のこと、仕事と出産、育児に関すること、退職後の復職について等が多く挙げられた。

#### 【結語】

多数の先生方や学生の皆様にご協力頂きまして多くの貴重な情報を得ることができ、感謝しております。今後は得られたデータをさらに詳細に比較検討し、学生の皆さんにご報告するとともに、学生さんたちの指導や、今後、女性として医師として十分に活躍できるようなシステム作りの一助となればと考えております。このような機会を与えて頂き、ご支援くださいました日本女医会に御礼と感謝を申し上げます。

#### 学術研究助成報告②

### 心筋細胞の Sphingosine 1-Phosphate 受容体によるカルシウムイオン代謝への影響

文京支部 塚田弥生

昨年度は、私どもの研究課題「心筋細胞の Sphingosine 1-Phosphate 受容体によるカルシウムイオン代謝への影響」に対し、日本女医会学術助成金を賜り誠にありがとうございました。これまでの研究の進行状況についてご報告させて頂きたいと思っております。

私の研究テーマである Sphingosine 1-Phosphate (S1P) は、脂質によるシグナル伝達系のひとつとして、循環器疾患の病態において様々な角度よりアプローチが進んでまいりました。S1P は生理的状态では血中 HDL コレステロールや血小板内に貯蔵され脂質代謝と動脈硬化と関連し、また心筋細胞や血管平滑筋、内皮細胞に受容体が存在することより、心筋保護、血管トーンスの調節に関与し、循環器治療のターゲットのひとつとして注目されております。しかし、S1P の受容体は、細胞膜に存在する G 蛋白結合受容体のひとつですが、S1P1-5 の 5 つの isoform が存在し、しかも互いのシグナルが複雑にクロストークしており、さらに、受容体が心臓血管系の発生に影響するため、遺伝子工学的手法を用いることができないため、シグナル伝達系の解明を困難なものにしております。

これまで、私どもの行った薬理学的手法を用いたラット単離灌流心モデルで S1P そのものは、虚血再灌流傷害において心筋保護作用があるものの、サブ受容体である S1P1 はむしろ再灌流不整脈をおこし傷害的に作用することが明らかになりました<sup>1)</sup>。S1P1 は心筋内で Akt を介し、細胞内 NO による cell survival pathway に関与することが予想されていましたが、ある条件下ではむしろ cell death pathway に切り替わり、他のサブ受容体がそれを制御していると考えております。おそらく、心筋細胞では S1P1 受容体は、細胞内 pH を感知しカルシウム代謝を促進することがその機序ではないかと、現在も検討を行っております。S1P 受容体選択的作働薬は、免疫抑制剤等としてすでに他領域では臨床研究が行われており、心臓における作用を明らかにすることは、薬物副作用の観点においても急務であると思われれます。

この1年間、大学における臨床も研究も環境の変化が大きく、大変困難な時期でありましたが、研究助成を励みとし、現在まで研究活動を継続でき、感謝の

気持ちで一杯です。最後に、日本女医会橋本葉子前会長、小田泰子会長をはじめ選考委員の先生方、日本医科大学内科高野照夫名誉教授、水野恭一教授をはじめ諸先生方に深謝いたします。今後ともご指導賜りますようお願い申し上げます。

- 1) Tsukada Y et al. S1P1-selective agonist SEW2871 exacerbates reperfusion arrhythmias. JCVP 2007, in press.

学術研究助成報告③

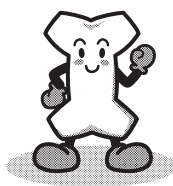
関節軟骨における血管新生制御因子 ANGPTL-4 の発現機構および機能解析

都下西支部 増子佳世

平成18年度日本女医会学術研究助成を賜りました研究課題「関節軟骨における血管新生制御因子 ANGPTL-4 の発現機構および機能解析」の研究経過を報告させていただきます。我々は関節軟骨細胞の研究を進めている過程で、近年クローニングされた血管新生関連因子 angiopoietin-like protein (ANGPTL)

-4 が、本来無血管組織であるヒト関節軟骨にも発現していることを見だし、現在はこの因子が関節疾患の軟骨変性過程にいかに関与しうるかについて、その発現および軟骨における機能を解析しているものです。

我々は変形性関節症 (OA)、関節リウマチ (RA) および外傷骨折患者より軟骨組織を採取、軟骨細胞を分離後単層培養を行ない、その一部は、他の細胞種で ANGPTL-4 発現を誘導する環境として報告のある低酸素下での培養とし、これら細胞および軟骨切片、さらに細胞からの蛋白抽出物や培養上清における ANGPTL-4 の発現を、PCR 法、western blot 法および免疫組織染色法等を用いて解析しました。この結果、ヒト関節軟骨細胞は ANGPTL-4 を基礎的レベルで発現しており、低酸素刺激によってこの発現および細胞からの分泌が有意に増加することが明らかとなりました。また、ANGPTL-4 の発現は疾患により異なるパターンを示していることや、シグナル伝達因子として特定の MAP キナーゼによる制御を受けていることも判明しました。さらに、ANGPTL-4 は、軟骨細胞からの各種蛋白分解酵素の発現に寄与している可能性が判明しつつあり、ANGPTL-4 がヒト関節疾患の病因病



新発売

骨粗鬆症治療剤

薬価基準収載

ボナロン®錠 35mg

Bonalon® Tablet 35mg <アレンドロン酸ナトリウム 水和物 錠>

劇薬・指定医薬品・処方せん医薬品 (注意—医師等の処方せんにより使用すること)

※効能・効果、用法・用量、禁忌を含む使用上の注意等については、添付文書をご参照ください。

製造販売元

TEIJIN 帝人ファーマ株式会社

資料請求先：学術情報部  
〒100-8585 東京都千代田区内幸町2-1-1

商標 #ボナロン/Bonalon® is the registered trademark of Merck & Co., Inc., Whitehouse Station, NJ, USA.

2006年9月作成  
BNW037 (KK) 0609改

態において、重要な役割をしていることが示唆されています。

我々の結果は、最近、脂質代謝や糖代謝との関連で注目を集めている ANGPTL-4 が、関節組織に発現し、関節疾患にも関与している可能性のあることを世界で初めて明らかにしたものであり、女医会の助成を得て一部を学会発表（国内・国際学会）の上、現在、原著論文を英文誌に投稿中です。今後の研究の展開としては、関節炎モデル動物の組織を用いて、

ANGPTL-4 と軟骨変性との関連を in vivo で明らかにしていく予定です。

最後になりましたが、日本女医会会長の小田泰子先生、前会長の橋本葉子先生をはじめ、選考委員の先生方、また共同研究者である聖マリアンナ医科大学の村田三奈子、遊道和雄、加藤智啓・各先生、日本医科大学リウマチ科・中村洋先生、および関係各位に心より感謝申し上げます。今後ともご指導ご鞭撻の程、よろしくお願い申し上げます。



## 子育て委員会

### 日本女医会・佐賀県女医会主催 『小児救急 Q & A 講演会』報告

佐賀支部 浅見豊子

独立行政法人福祉医療機構（子育て支援基金）の助成をいただきました『小児救急 Q & A 講演会—アンケートからみえてきたあなたの疑問に専門医が答えます—』を、平成 19 年 7 月 8 日（日）の 11:00～12:30 に佐賀県佐賀市のほほえみ館（佐賀県保健福祉会館）にて開催いたしました。

講演会準備は、まずは例年 1 月に行います佐賀県女医会新年会におきまして県内会員にお知らせしましたのがスタートとなりました。その後は、木下晴美実行委員長（佐賀県女医会副会長）と横須賀麗子佐賀県女医会会長を中心に数名の実行委員により企画を行い、数回の準備委員会におきましては実行委員以外の先生方の協力も得ながら、県内女医の手で運営準備を進めていくことができました。広報につきましては、緒方文江前佐賀県女医会会長の挿絵を用いたポスターを作成し、各マスコミ関係者へも広報協力を依頼しました。

講演会の内容としましては、

#### 1) 総論

① 佐賀市内の保育園や幼稚園に通う子供たちの保護者約 3,000 人よりご回答いただきました小児救急に対する保護者アンケート結果のご報告

② 佐賀市における小児休日夜間医療の現状

#### 2) 各論—けがと病気への応急処置の方法—

① 痙攣、熱、熱中症、脱水、嘔吐、下痢

② 鼻出血、耳の異物

③ やけど

④ 傷、骨折、捻挫、脱臼、肘内障

⑤ 頭部打撲

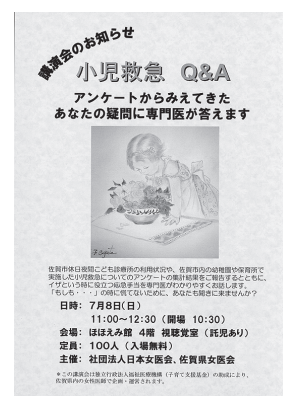
⑥ 誤飲

⑦ 救急蘇生の実技

と盛りだくさんの内容を各々県内女性専門医がわかりやすく解説することになりました。

当日は、佐賀県女医会の 27 名もの先生方に講師あるいは会場スタッフとして協力していただきました。あいにく雨天となったため参加人数が心配されましたが、悪条件の中にもかかわらず、79 名と多くの方が参加され、併設いたしました託児室のほうも 13 名の子供たちの利用がありました。会場内では、皆様が熱心にメモを取られ、実技にも積極的な参加が得られました。このように、熱気にあふれた講演会として好評のうちに終了することができましたことを大変嬉しく思っております。そして何よりも、ご協力いただきました佐賀県女医会の先生方に深く感謝する次第です。

実は、好評を博しましたお蔭で、第 2 回講演会の開催が決定いたしまして、9 月 29 日（土）曜日の午後に佐賀県の西に位置します鹿島市で行うことになりました。また、次回も実りのある講演会になることを願ひまして、ご報告とさせていただきます。



## 長寿社会福祉委員会

### 第 5 回「たんの吸引」を安全に行うための講習会を開催して

宮城支部 樋渡奈奈子

私共、宮城支部はこれまで女性への健康啓発を当支部活動の一環に掲げ、女性健康相談・市民公開講



実技用の人形モデル



大きなガラス窓の仙台市医師会館



噛み砕いた内容の講義

演会等を開催して参りましたが、平成19年7月14日午後1時半より日本女医会主催、宮城県女医会共催により第5回「たんの吸引」を安全に行うための講習会を、仙台市の後援も頂き開催致しました。当日は海の日の日連休初日であり、悪天候も心配され、参加人数の低迷が心配されましたが、申込みどおり79名の出席を頂き、本講習に対する一般人の関心の高さが伺われました。宮城支部総会が次週の開催であったため、準備不足が心配されましたが、会員の協力により、無事開催することが出来ました。また、会場の仙台市医師会館のホールは三方がガラス窓で仙台の象徴である大念寺山、広瀬川の眺望が楽しめ、講演の疲れも吹き飛んだようで、実技の講習では熱心に講師の先生方に質問される姿が散見されました。

開催するにあたり苦勞した点は、本部よりのマニュアルでは実技用の人形モデルはメーカーから借用する予定でしたが、既に講習会当日は他施設へのレンタルが決まっており、慌てて、人形モデル探しに駆け回ることになってしまったことです。人生塞翁が馬の如しで、山本蒔子会長以下多数の会員の尽力により、予想以上の人形モデルを用意する事が出来ました。特に永井豊子会員、KKR宮城野訪問看護ステーションの古積美栄子看護師長並びに看護師の方々には過大なご協力を頂きました。また、長寿社会福祉委員会の委員長で、本講習会の責任者である大坪公子先生のご助言を頂き、講習会の対象者が、主に介護家族や介護担当従事者であることを考慮して、「百聞は一見にしかず」をモットーに、講師の先生方には、大変申し訳なかったのですが、講義の

時間を最小限に設定して、実技の時間を多く取れるような時間配分としました。なるべくパワーポイントを使用して頂き、噛み砕いた内容の講義をお願いしました。また、現場で活躍されている看護師・医師に実技の指導者として多く参加して頂き、実技の実習もスムーズに進めることができました。長寿社会福祉委員会の川田明弘先生、日本女医会理事の藤川真理子先生には、講義のみならず、実技の方でも細やかなご指導を頂きました。地元の講師として東北大学教授の川原礼子会員は、法的解釈に関し、現在の諸問題につき、具体的な事例を基に説明をされました。清野澄子県介護福祉士会顧問講師には、会が直面している問題についての貴重なご意見を聞くことが出来ました。東北大学高等教育開発推進センター助教の玉田勉講師には、ビデオも利用されての嚙下機序説明等、正に目で見る分かりやすい講義をして頂きました。

講習会後のアンケート調査では回収率も97.5パーセントと非常に良好で、講習会の評価も「とても良い」と「良い」、が多数を占め、大変好評でした。反省点として、今後の広報活動のあり方や講習内容に関して上級者向けの講習の検討、および今回の講習会を出発点としてさらなる開催等前向きな検討が挙げられました。

最後にご協力いただいた名古屋での講習会を担当されました山本蒔子先生を始めとする愛知支部の先生方、大阪支部の先生方に感謝申し上げます。



看護師、医師による実技実習





## 第27回 国際女医学会

### 平敷淳子先生 国際女医学会会長ご就任を お祝い申し上げます

会長 小田泰子

当会会員であり、長らくナショナルコーディネーターとして日本女医学会と国際女医学会との橋渡し役を務めて来られた平敷淳子先生（昭和39年東京女子医大卒、放射線科）が、この8月、ガーナで開かれた第27回国際女医学会で会長に選出されました。平敷先生の国際女医学会会長就任は、第26回国際女医学会が東京で開催された際に、次期会長と決定されていたので、既定の事実ではありましたが、国際女医学会という晴れの舞台上で堂々と会長にご就任されたのは日本女医学会会員として非常に誇らしいことでした。平敷先生はこれから3年間、国際女医学会会長として世界の女性医師の代表としてご活躍なさることになり

ました。

国際女医学会は1919年、世界16か国が加盟してニューヨークで発足した会で、日本女医学会は設立当初からこれに参加しています。第1回の設立会議には日本女医学会評議員の井上友子先生（1895～1901米国留学。ミシガン大学医学部卒）が出席なさいました。

これまで日本は二度、国際女医学会の開催地となっています。最初は1976年に開かれた第15回国際女医学会で、そのときの国際女医学会会長は小野春生先生（東京女子大22年卒、小児科）でした。2回目は2004年に開催された第26回国際女医学会で、そのときに平敷淳子先生が次期国際女医学会会長に選任されました。

現在、国際女医学会には世界88か国が加盟し、約10万人の会員を擁しています。日本女医学会はこれまで多数の人材をこの会議に派遣してきましたが、会長を送ったのはこれで、二人目ということになります。

平敷新国際女医学会会長は「女医学会の存在を世界に



大日本住友製薬



©MASAKATSU SHIMODA



高血圧症・狭心症治療薬/持続性Ca拮抗薬 薬価基準記載  
製薬・指定医薬品・処方せん医薬品（注）一錠部等の処方せんによる使用すること

**アムロジン**® 錠2.5/錠5  
OD錠2.5mg/OD錠5mg

Amlodin® ベシル酸アムロジピン錠・ベシル酸アムロジピン口腔内崩壊錠

※効能・効果、用法・用量、禁忌を含む使用上の注意、効能・効果に関連する使用上の注意、用法・用量に関連する使用上の注意等につきましては添付文書をご参照ください。

製造販売元（資料請求先）

**大日本住友製薬株式会社**

〒541-0045 大阪市中央区道修町 2-6-8

〈製品に関するお問い合わせ先〉

くすり相談室

**0120-03-4389**

受付時間 / 月～金 9:00～17:30（祝・祭日を除く）  
【医療情報サイト】<http://ds-pharma.jp/>

2007.4作成

発信し、女性の地位向上や女性の健康に関する啓発活動を推進したい」と抱負を述べておられます。今後のご活躍を期待しています。

## Participation, Communication and Visibility

国際女医会会長 平敷淳子

2007年8月3日、ガーナで開催されました第27回国際女医会議の最終日の総会で国際女医会会長に就任いたしました。野口英世が、黄熱病の研究とfield workに生涯を捧げた地、ガーナのアクラで会長に就任できましたことに何か運命的なものを感じました。これから3年間、2010年ドイツ、ミュンスターでの総会最終日まで会長を務めます。

どうぞよろしく、お願いいたします。

今回は会長就任演説、国際会議終了後の新しい理事会の招集と続く一日半の理事会の議長が大きな任務でした。

会長主任演説では3つのkey wordsをまず提示しました。それらが表題です。会員全員が関心をもって国際女医会の活動に参加して欲しいというparticipation。自国内—国際間、理事会—会員間、国際組織—国際女医会などの連絡を密にしてほしいというcommunication、国際女医会を世界に知ってもらい、意見の発信源になりたいというvisibility。これからのkey wordsを遂行していくためのstrategies(方略)を演説にもりこみました。

方略では会員の参加を募るためには研究プロジェクトを公開し、多方面の関心を求め、そのための財源の確保を図る。Communicationは従来にもまして、web siteの充実を図り、かつ個人会員にも情報が行き渡るようにする。Visibilityは他のNGO、NPOの会議には積極的に参加し、かつ研究成果を発表し、記録として残すなどでした。

演説の形式は美辞麗句を排除し、きわめて端的に、論理的にしました。その意図は総会参加者につたわり、“very professional”、“business-like”、“theoretical”等の評価を受けました。望んでいた通りの反応で嬉しかったです。

「自分のスタイルを変えない」というスタンスで、私はずっと生きてきました。国際女医会の中にあってもこれがもっとも大切な要因のひとつであることを強く感じた今回の会議でした。「アフリカだからこうする」

ではなく、「アフリカでも自分のスタイルは変えないで業務を遂行する」とう生き方も、多くの参加者から賞賛されたことがらのひとつでした。

多くの人の目線を感じとっています。

末尾になりましたが、国際女医会への門を開いてくださいました山崎倫子日本女医会名誉会長、国際女医会名誉会員、会長立候補をお勧めくださいました橋本葉子日本女医会前会長、変わらぬご支援を賜っております会員各位に、改めまして御礼申し上げます。

## 第27回 MWIA ガーナに ナショナルコーディネーター (NC) として出席して

ナショナルコーディネーター 内瀬安子

2004年、日本女医会がお世話した東京で開催された26回国際女医会議(MWIA)から、早いものでもう3年経過した。会誌にてこれまで何度かアナウンスしたように、本年、27回MWIAがガーナの首都アクラのラ・パーム・ビーチ・ホテルにおいて開催された。

今回の特記すべき、記念すべき、そして日本人として誇るべきことは、長らく日本女医会理事として活躍され、前回の東京で開催されたMWIAでは運営、事務一切を切り盛りしてくださった平敷淳子先生(埼玉医科大学名誉教授、放射線科前教授)がこの3年間は次期会長として活躍されたのであるが、晴れて本会議での最終日にMWIA会長となられたことである。ガーナの本会議においても東京でのと同じように、はでな民族衣装をまとった大柄のアフリカの女性医師が会場を闊歩する中、小柄なアジア人はいとも簡単に隠れてしまうのであるが、平敷先生のお姿はどこからも見つけることができ、八面六臂の活躍であった。日本から参加した我々にはとても心強いものであった。

初日に先立ち、NCに対するオリエンテーションがあった。前回の日本で開催されたMWIAの様子がMWIA事務局長のディークハウス女史から何枚ものスライドを使って紹介された。良い会だった、思い出深い会であったと、各国の参加者から声をかけてもらったが、当事者のひとりとしてやはりうれしいことであった。

MWIAは会長、次期会長、前会長、事務局長、財務局長の本部の下に、世界を8つの地域に分けて、それぞれの地域のトップがMWIA地域副会長として、

本部を支えるという構成である。すべての役目の任期は3年である。各国のNCは言ってみればMWIA地域副会長の下に属することになる。日本は西太平洋地域に属し、地域副会長は今回まで韓国のパク女史であった。今後は台湾のヤング女史と決まった。

前回まではNCの役目を長らく平敷先生がなさっておられたが、内潟は今回がはじめてのMWIA本会議でのNCとしてのデビューであった。平敷先生からさらに細かにオリエンテーションしていただいた。まず、次期会長選挙があり、ガーナのHusse女史が韓国パク女史に僅差をもって選ばれた。次期開催地として自薦のあったドイツのミュンスター市が賛成多数で選ばれた。

会期中に3回の総会が開かれるのであるが、総会には、参加者全員で動議に賛成 (favor)、反対 (against) の意思を表示した。今回の総会には、安全なabortionの推進、避妊に対する女性の意思決定、家庭内暴力、幼児虐待、健康に係る環境問題、AIDSに対しては、賛成多数の決議を得た。また、子宮頸がんに対するHPVワクチン接種や他のガンの予防に対しては、もうすこし討論をしてからのほうがよかろうと、決議は次回にもちこされた。学生を会員とするかどうか、会員としての権利を与えるか、会費をどのようにするか等の動議には、賛成、いや時期早尚、反対、いろいろな意見が噴出した。英国から参加していた女子医学生生意見を取り上げることもなされ、会場からやんやの拍手を得た。

来年は、前回フィリピンで開催された国際女医会議の西太平洋地域会議がメルボルンで開催される。その3年後は日本で開催されることになっている。

## 学術部報告

理事 山本纈子

第27回国際女医会議は2007年7月31日から8月5日まで西アフリカのガーナの首都アクラで開催された。出発前は、黄熱病の予防接種を行い、加えてマラリヤやA型肝炎などがendemicにあり、医療事情も明らかでない土地で罹患したらどうなるかを心配したが、現地では気温は27～30度、湿度も低く、出発時の日本より快適な気候で、多くの防蚊製品を携帯したが、蚊も数回見かけた程度だった。「アフリカの8月」とは何という時期に開催かと不審であったが、雨は滞在中、夜間に1回降った程度で、翌朝には路面も乾き、蚊の発生する水溜まりもできず、開催地とし

ては最も良い季節を選定したのだと納得できた。

さて、general assemblyについてはnational coordinatorの内潟先生が報告されるので、学術としてはscientific programについて概説したい。

初日は9時からgeneral assemblyが行われ、学術プログラムは12時からポスターセッションで開始し、ここで日本女医会からは、大坪公子先生がたんの吸引を安全に行うための教育講習会、筆者山本纈子が脳血管障害の危険因子における男女差、東京医療センターの佐藤博子先生が形成外科の演題で発表した。13～14時のランチタイムの後、Keynote addressとして国連人口基金 (UNFPA) の副専務取締役であるMs. Mali Simonenが“Women in the world of medicine”と題して講演された。彼女はフィンランド籍で、公衆衛生、生殖医療、HIV、人口問題、性差別に関して国際的な視点で問題を提起して世界各国で取り組むよう指揮し、1994年のカイロ国際人口開発会議 (ICPD) の事務総長として活躍し、高い評価を得た人で、今回もこれらの問題について総説的に講演された。

2日目のKeynote addressは、Dr. Cherlotte Abakaの“Gender in medicine”で、特にアフリカにおける女性の問題について医学的な立場から話され、これに関連してparallel workshopsとして“Gender main streaming”と“Human papilloma virus (HPV)”があり、筆者は後者に参加した。子宮癌とHPVとの関連の検証とHPVに対する治療の問題が討議されたが、先進国からの参加者の間でより注目されているとの感があり、これに関しては現世界女医会会長のG.Casperの“Global Call to Stop Cervical Cancer”という呼びかけ講演もあった。

2日目の午後は“Hospital Visit”があり、濱田理事が小児病院見学に参加し、憂慮すべき状況との報告だったが、移動の際に垣間見た町々の雑然かつ貧しい状況から充分推察できる状況と感じた。

3日目のKeynote addressは、G.Casperの“Leadership for medical women”で、引き続き7つの関連演題が発表された。日本女医会からは津田喬子先生が女性医師

のキャリア形成の困難さについて話された。ドイツ、オーストリアなどの先進国



野口英世の銅像前で。前列中央が日本女医会会長小田泰子先生。

からも女性医師のポジションが問題となっている発表があったが、開催国ガーナをはじめアフリカ諸国などの発展途上国では、若い女性医師と話した限りではあまり切実ではないように感じた。ナイジェリアの28歳の女性医師は、望めば家事・育児のためのヘルパーが容易に得られ、キャリア形成において男性とさほど変わらないと話し、卒業試験を受けた直後のガーナの医学生も同じような答えであった。発展途上国では専業主婦が多く、専門職以外の女性は勿論、男性ですら就労困難な状況であり、家事・育児の助けを得やすい状況で、考えてみれば戦前や戦後まもなくの日本も同様であった。

午後からは4日目の午前のプログラムが行われ、Keynote address “Health in a multicultural world” が Sai 教授によって講演されたが、基本的には発展途上国の問題に終始し、続いて “Beyond the ICPD” と題する UNFPA によるシンポジウムが行われた。ICPD で確認されたリプロダクティブヘルスの質的向上への努力の結果はまだ充分ではない現状が討議されたが、演者が報告する内容の殆どがそれぞれの国の男性に向けて話されるべきものであった。UNFPA が何故この会議で横行しているのか理解できなかったが、会

長が資金的援助を受けていると平敷先生から解説されて納得した。

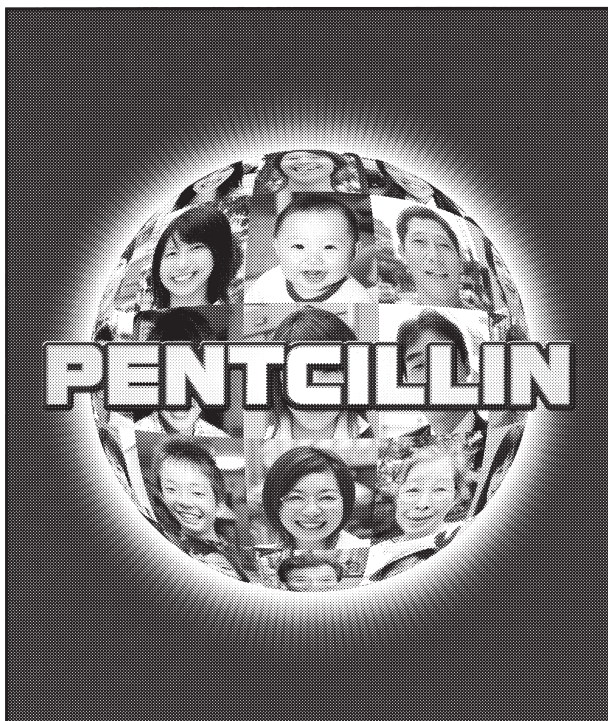
4日目以降は主にビジネスミーティングで、ここで前日本女医会理事平敷敦子先生が2010年ドイツでの第28回国際女医会議までの3年間、世界女医会会長に就任された。

## 女性医師キャリア継続のために

### —第27回世界女医会議における発表—

理事 津田喬子

第27回世界女医会議（議長 Dr. Afura A. J. Hesse）はメインテーマ「Women in the World of Medicine：医学、医療の世界における女性」を掲げ、2007年7月29日～8月4日の会期でアフリカ、ガーナ国アクラで開催されました。今回は日本女医会前理事平敷淳子先生が次期会長に就任されることと、前回開催国が日本であったことから、多くの参加者がありました。ガーナは、野口英世博士の活躍の地、また、チョコレートの宣伝で聞いた遠い国のイメージどおり、日本からはドバイを経由して20時間以上を要しました。会



合成ペニシリン製剤

薬価基準収載

指定医薬品・処方せん医薬品<sup>注)</sup>

**ペントシリン**<sup>®</sup>

注射用 1g・2g  
 静注用 1g・2g バッグ  
 筋注用 1g

**PENTCILLIN**<sup>®</sup> 日本薬局方 注射用ビペラシリンナトリウム  
 (略号 PIPC)

注) 注意—医師等の処方せんにより使用すること

「効能・効果」、「用法・用量」「禁忌、原則禁忌を含む使用上の注意」、「用法・用量に関連する使用上の注意」は添付文書をご参照ください。



発売[資料請求先]  
**大正富山医薬品株式会社**  
 〒170-8635 東京都豊島区高田3-25-1



製造販売  
**富山化学工業株式会社**  
 〒160-0023 東京都新宿区西新宿3-2-5

2007年8月作成

場はアクラ市内有数の La-Palm Beach Hotel に隣接した会議場で、環境はそれほど悪くなかったのですが、会議の運営はかなり自由奔放でした。と言いますのは、私を含めて発表予定の女医会の諸先生の抄録がアクセプトされたのかどうかの確認すらとれない準備状態であったからです。それもあってアクラの会場では各国の先生から「日本はさすがに良かった」と賞賛の言葉を頂き、私自身は日本開催において何のお役にもたてなかったのですが、嬉しい気持ちにさせていただきました。

世界各国からの参加者中、主催国ガーナをはじめとして、ナイジェリア、ウガンダ、ジンバブエといったアフリカ諸国の参加者がその数と熱気の両面で会場を席卷していました。私はサブテーマ「女性医師とリーダーシップ：キャリアアップの仕方」のセッションにおいて「A survey on women's attitudes toward their career advancement in Japan：日本におけるキャリア向上への女性医師の意識改革」と題して、1. 現況報告、2. 女性医師の働く環境改善方策、3. 女性医師キャリア継続のために、の3つを骨子として、約15分間の発表をすることができました。その概要を述べさせていただきます。

1. 現況報告においては日本の医師国家試験に占める女性医学生の割合が過去8年間に亘り30%以上を維持していること、しかし医療機関における女性医師キャリアの集大成の結果と考える女性教授数は2003年と2005年の比較において、むしろ減少していることから、未だ日本は男性社会であることを示しました。

2. 女性医師の働く環境改善方策については、日本女医会による女性医師問題ワーキンググループによる活動を始め、各大学、医学会、医師会、行政が積極的に女性医師のサポートに取り組んでいることを報告しました。

最後に3. 女性医師キャリア継続のために、1) 託児所の充実、2) 女性医師としての強いモチベーションの維持、3) メンターを含むサポート体制、4) 復帰支援体制、5) 勤務時間の短縮、の5つの提案をしました。

本会議において正式に会長にご就任された平敷淳子先生の堂々とした、格調高いご挨拶は、日本女医会の誇りであると同時に、日本の女性医師の歴史への記念すべきマイルストーンであると感じました。女医会会長を始め、理事、会員の諸先生、各国の先生との交流は貴重な体験となりましたことを改めて感謝致します。

## ガーナ (MWIA 2007) に出席して

千葉支部 松信恵美子

国際女医会議がアフリカ、ガーナで開催、平敷淳子先生が会長に就任されると聞いて、是非出席したかった。家族が驚く中、一大決心をする。メンバーは総勢9名、多士<sup>ヒラ</sup>濟々、「お前だけか平は」という夫の言葉を聞き流し、免にも角にも出発。7月28日深夜関西空港から搭乗、乗換空港アラブ首長国連邦ドバイまで、エミレーツ航空で約9時間、早朝ドバイ着。空港の床は至る所黒い肌の人達が横たわって占拠、多人種でゴった返す中、王族か富豪とおぼしき家族がカート<sup>カート</sup>を運転させ猛スピードで通りぬける。女性の黒いベールの下から大きな宝石がキラキラ、格差はおろか、別人種、早くもカルチャーショック。朝7時ドバイ発、ガーナまで約9時間、スチュワーデスの白いベール、赤い制服が何とも優雅。翌日午後、ガーナ首都アクラ着、空港ではじめて全員にお会いしたが、旧知の如く接して頂いた。気温29℃湿度75%の海辺の街。現地事務所田村氏がマイクロバスで出迎え。ホテルへの道すがら半日市内観光、官庁街は旧英国領で広い通りにあり瀟洒な建物だが、数分も走ると埃まみれの小屋、物売りの女性は大きな荷物を頭に売り歩く。建国の父エンクルマ大統領記念館では、毛沢東、周恩来との写真に中国との関係の深さを知る。野口英世博士の旧研究室へ。入口に小さな日ノ丸の旗。学生時代の生化学実験室を思い出す。黄熱病で知られる野口博士とガーナは深い縁と思っていたが、現地の学生達は知らないと言う。夕方 Labadi Beach ホテル着、流石に疲労困憊。夕食会の最中一時停電、アフリカの五ツ星ホテルと納得することにした。

翌日は航空便の都合で観光の一日。ケープコースト城、エルミナ城へマイクロバスで埃まみれの街道に行く。城とは名のみで奴隷海岸の奴隷集積所。堅固な要塞、老若男女一網打尽に連れ来られ、ヨーロッパ大陸への航海を待つ。劣悪な環境と航海で多くが死亡、とガイドが説明。城の中の苛酷な拷問の跡も



エンクルマ大統領像前で



執行部の方々



野口英世博士研究室

さることながら、青いまばゆい大西洋に向けて海岸べりに並べられた十数台の大砲の列が多くを語って胸に迫った。昼はホテルの砂浜、ヤシの木の下で大西洋の風に吹かれてランチ。現地人の土産物売りがどこにでも現われる。夜、平敷先生を囲み会食。カルチャーショックと楽しかった一日が終わる。

学会第一日は次期会長選挙。ガーナの Dr. A Fe A.J. Hesse が選出される。ガーナのグループは喜びの余り歓声をあげ踊り出した。主題「Women in the world of medicine」講演は世界各国の女性に共通の課題、職業、家庭、知識技術の取得に尽きた。会場のアシスタントは女子医学生。黒い肌、お尻のキュッと上ったスマートな体に民族衣裳がよく似合う。だが結婚、出産後は四倍位に変身するらしい。旧英国領、部族多数のため、公用語は英語。Dr の中には欧米に留学、高いキャリアを持つ方もいる。次期会長 Dr.Hesse もニューヨークで研鑽を積んだ由。午後は「OPENING CEREMONY」。政府要人が列席、特に副大統領夫人は女子理系、医学教育推進を図っていると新聞は報じていた。現地のガールスカウトの各国国旗掲揚行進とアフリカ太鼓と情熱的な部族の踊りで式は始まる。

二日目。主題は「Gender in medicine」。HIV、HPV 等性感染症、DV、レイプ、技術者不足による輸血困難等々、アフリカ全土で大問題であることを知る。

午後、唯一の公立病院 KORLE-Bu 病院見学、希望者多数のため一人一科のみ小児病棟見学。乳幼児から年長児まで同室、ベッドの間は太った付添の母親がやっと座れる広さ。新生児用クーベスが隅に数台。野戦病院さながらとショックを受ける。私立病院は見学不可、欧米で教育された Dr が高度医療を行っていると聞いた。

三日目。主題「Leadership for medical women」。女医の活動生活リーダーシップについて各国現状の講

会場にて、Dr.とその息子



演があった。日本から津田喬子先生が講演。夕方「Social Evening」がガーナ大学で開催される。バス11台に全員分乗し、夕方のラッシュアワーの中、ポリスのオートバイに先導される。11台のバスの列がノンストップで埃をあげて対向車線を走行、現地の人々は驚き足を止めていたが、これでも on time ではない。ガーナの時間はゆったり進む。大学構内は広大、正門から延びた広い通路の両側は大木が林立、欧米風の校舎と宿舎が点在、市街が一望できる丘の上にあった。レセプションは広場で若者の太鼓と部族の踊り。アフリカであることを思う。

四日目。prof FT. Sai 「Health in a multicultural world」、chair person は平敷先生。アフリカ各地の課題の講演があった。ガーナ学会は総じて、HIV など性感染症、女医の活動が主題。先進国で多くみられる加齢、メタボリックの課題はほとんど提供されなかった。

五日目、平敷先生の就任講演、ガラディナーに私的な都合で出席できず、誠に残念であった。女子医学生3～5割の現在、今更女医会の批判もあるが今回 MWIA に参加して、国際的に活動する伝統ある会と認識を新たにする。講演受講、発表・見学、多忙な学会の寸暇を惜しんで観光もする英語堪能、話題豊富、お洒落でスマート、その上エネルギーな会長先生はじめ諸先生方に驚き、かつ深謝申し上げたい。そして MWIA 会長の名誉ある地位に就任された平敷淳子先生の恙無い御活躍を切望致します。

最後に大坪公子先生の御歌の一部を

- ・尻振りて激しき踊りする国で  
女性自立の道の険しき
- ・アフリカでの国際会議の難しき  
イライラせず待つにしかずと
- ・母性保護 暴力 エイズ タバコ 癌  
問題多き国際女医会議

## 第27回国際女医会議に参加して

目黒支部 佐藤博子

私は今年日本女医会に入会した新参者ですが、恐れ多くも27th International Congress of the Medical Women's International Associationに参加させていただきました。

今回誘ってくださった先生が多忙のため学会参加を見合わせられたこともあり、初対面の先生方ばかりでしたが、本当に楽しく充実していてあっという間に時間が過ぎてしまいました。

今回の学会では、ガーナのお国柄からか、直前までプログラムがきちんと決まっていなかったらしく、学会がきちんと運営されるかNCの内潟先生が相当心配していらっしゃいました。案の定学会が始まってみると、受付を済ませるだけでひたすらに待たされ1時間近くかかる始末。開会式の時間に間に合わない!と思ったら開会式が始まるのも1時間遅れ、とひたすらに時間がずれこむ顛末でした。はじめのうちは予定通りにスケジュールが進まないことにあきれていた日本人たちも次第に「ガーナ時間」に馴染み、何とも思わなくなりました。特に小田会長が落ち着いていらっし

やったこともあり、私たちも周囲に惑わされずに過ごせたという感があります。また、私はポスター発表を行うつもりで準備していったのですが、ポスター発表のプログラムを確認すると、なんと名前が載っていません!確認してみると口演もしくはポスターで応募した日本人3人の演題が完全に抜けており、なんともいい加減なことです。結局山本先生のご尽力でポスターを貼るスペースを確保し、強引にポスター発表の実績を作ってきました。山本先生、大坪先生、濱田先生に本当にお世話になりました。

そして、今回は国際女医会の会長に日本人が就任した記念すべき学会ともなりました。会長に就任されました平敷淳子先生の品のある、意思を明確に示したご挨拶を拝聴できたのは本当に幸運なことで、日本人であることを誇らしく思いました。気さくでお洒落で、周囲に気を使って声をかけてくださるその人間性にも大変魅了されました。

津田先生には印象的なお話をお伺いしました。海外では奨学金などをもらいながら苦勞して医学部を卒業し、医者になったらお金を返しながらか働く女医が多いそうです。苦勞して資格を取得しているため、その後も仕事を投げ出すことは減多にありません。しか

過活動膀胱治療剤

指定医薬品、処方せん医薬品<sup>注</sup>

# ステーブラ<sup>®</sup>錠 0.1mg

イミダフェナシン錠

STAYBLA<sup>®</sup>

注) 注意・医師等の処方せんにより使用すること。

薬価基準収載

新発売



●効能・効果、用法・用量、禁忌を含む使用上の注意等、詳細は製品添付文書をご参照ください。

資料請求先



小野薬品工業株式会社

〒541-8564 大阪市中央区久太郎町1丁目8番2号

070701

し、日本では結婚や出産を機に医者仕事をやめてしまう女医が多く、その率は他国と比較して群を抜いているそうです。日本の女医ももっと医者仕事に固執してくれると良いのに、とのご意見でした。

私の周囲には先輩や同世代の女医が少なく、また私が独身であることもあり、これまで女医の立場というものを真剣に考えたことがありませんでした。ですが、今回は広い分野で活躍されている先輩方と一緒にきて、自分の今後を現実的に考える良い機会となりました。また、礼儀知らずの私に対して年上の女性

の先生方が本当に親切にしてくださり、一緒に観光や食事を楽しませていただいたのはありがたい経験であり、自分も後輩に同様に接していけるようになりたいと切実に思いました。そして、狭い世界で独りよがりにならずに多くの方と接することで、視野が広がることを実感しました。そういった意味でも今回の国際女医会議に参加したことは想像を超えて貴重な経験でした。お世話になりました先生方に心より感謝申し上げます。本当に有難うございました。

## がん体験者の登山

東女医学内支部 橋本しをり



私は1980年東京女子医科大学卒業後神経内科学教室に入局しました。分子免疫学の研究に従事した米国留学を経て神経内科学教室に帰局後、2004年から総合研究所にて低酸素をキーワードにした横断的な研究をしています。この間8,000m峰登山の際に医学研究を行う機会にも恵まれました。

今回、女性がん体験者中心の登山クラブであるフロント・ランナーズ・クライミング・クラブ（Front Runners Climbing Club；以下FRCC）の山行、北アルプス、涸沢、奥穂高岳往復を、米国の乳がん体験者と共に行ったので紹介させていただきます。

FRCCの目的は女性がん体験者が登山を通じて生きる意欲を増し相互の親睦をはかることにあります。設立の経緯は米国乳がん財団共催の2000年がん克服日米合同富士登山に遡ります。この時、「登山とがん患者のQOL」調査を行い、登山によって身体症状、精神状態、心配事などが改善していることを見出し、がん体験者の登山活動を継続していくことを決心しました。現在会員は20～70歳代の72名、第2日曜に関

東近郊の山に登り、夏と秋に宿泊山行を行っています。

FRCCの会員は、米国乳がん財団が主催するシヤスタ山、レーニア峰登山にも参加してきています。同財団は、登山活動を、乳がんがもたらす全ての苦痛を撲滅する決意を示すものととらえています。共に登ることにより精神的に大きな力を得て帰国しており、より多くの会員が参加できればと考え、活動の趣旨に賛同したピアニスト小山実稚恵様のチャリティ演奏会を行い、米国人との合同登山が可能になりました。

今夏の第68回山行は米国5名、会員34名、東京女子医大山岳部学生3名の計42名でがん体験者24名、山行サポーター15名、医療サポーター7名と盛大な山行になりました。7月22日朝新宿を出発し上高地から横尾泊、23日は涸沢にはいりました。24日は雨がやみ、真っ青な空をみながら奥穂高岳を往復しました。特に体験者のみの記念撮影時は「心に熱いものを感じた」という声が聞こえました。奥穂岳の頂上ではメリーアンが「祈りの旗」を空高く掲げました。彼女は現在53歳で、手術をしてから21年たち、



達成感の喜びをわかちあう参加者たち





「祈りの旗」を掲げるメリーアン

その間12年間骨と肺への転移があったが今は安定しています。掲げた“祈りの旗”に、乳がんと共に生

きている人、亡くなった人あるいは心に思う人の名前を書き、山行のたびに高いところで掲げ思いを風に乗せるという儀式を行っています。涸沢では全員で輪になり旗を持ちながら心に思う人の名前を呼び上げました。胃リンパ腫の手術歴のある71才女性の「自分と似た経験がある人との交流はとても大切。また会いたいと思う気持ちが、登山後の生活の励みになる」という発言が印象的でした。25日は上高地に全員無事下山をし、達成感の喜びと共に終了した寂しさなど、それぞれが思いをかみしめて上高地をあとにしました。

今秋東京女子医大にて登山者外来を開設予定です。詳細については下記まで。

shashimo@lab.twmu.ac.jp

### 私の好きな食べ物屋さん④

## 昼のにぎり鮓

港支部 二村美美江



### ①おつなずし

昭和33年に六本木三丁目に皮膚科泌尿器科を開業して以来の最良のお店です。お祝い事、法事、家での小宴会で出前をお願いし、一人でとび込んで「にぎり」をつまんだり。独特の油あげを逆にした稲荷ずしは有名です。

東京ミッドタウンが店の前にたった時、「すくでしょうね」と若おかみさんが聞くから、「逆にこみますよ」と私が申した通り、連日順番待ちです。

昼のメニューの「にぎりずし」は前菜つき、おわんつきで1,000円ですが、おまかせの「にぎり」が1,600円の昼メニューで、しっかりしたネタです。

### ②玉寿司（銀座コアビル地下一階）

入口に小さい椅子が3～5脚おいてあって、これに座らないですーっと入れる日は数えるほどという繁盛店です。やっぱりネタの大きさとお米のおいしさが我々老婦人の人気を得ているのでしょう。

昼芝居を、ここでおなかもちよくして行くか、帰りに寄って、そこからすぐ銀座線に乗って帰るかしています。夜の部のハネのあとは少々ネタ切れで、閉店近くは×です。おすすめ時間帯は11時～16時。

貝類が新鮮です。私は赤貝が大好きなので（近

頃歯のせいで好きだった「ひも」は敬遠していますが）4かんは頂いてしまいます。

### ③つきじ寿司清（渋谷・渋谷シネマの地下2F）

私はまだ一回だけの新人ですが、友人や、家の者が推します。理由はこの品でこの値段！ 私がごちそうして5人位で夕方でした。いただく時間帯が5～6時頃。女性ばかりでしたがお酒・ビールを結構頂いてのお勘定、女ばかりで50歳の食べざかり。私来年80歳。三枚出してカウンターへ、二枚でおつり少々来ました。

夕食時で勝手なこと云って、あれこれ注文して一人5,000円以内。満腹でした。銀座からすこし築地よりにすすむと、名の通ったお店が、洋食でも和食でも、銀座四丁目交叉点を境に、品物はよくて少し安い!! やはり仕入上手の方達が代々築地市場の品物を知りつくし、売る方も夜は買い手の店の上客になるからだと推察いたしました。

### ④すしざんまい（六本木）

地元ですが、開店間もないお店です。午前の仕事が終わって昼食をつくってもらえない時がたまにあります。先日仕方なくこのお店に入りました。時間が午後2時20分でしたので、ガラすきで、カウンターの方が「昼間のランチは終わってます」とさけんです。つけ台で、マグロ（中とろ）4個、こはだ2個、すだれ巻のタクアン。計1,260円、高いかどうかは舌に聞きました。少々高い。とびこみの客は駄目だと身にしみました。

キリンなのに、  
はじめまして。  
わたしたちは、  
キリンファーマです。



**2007年7月、新しい会社が生まれました。**

**キリンファーマ株式会社。キリングループの医薬事業会社です。**

今から25年前、キリンビールはビールづくりで培ったバイオ技術を活かし、医薬品の研究開発を開始しました。その8年後には、第1号医薬品を発売。以来、画期的な新薬を医療の場にお届けしてきました。

そして2007年7月。わたしたちは「キリンファーマ株式会社」として独立し、新たな一歩を踏み出しました。

病気と闘うすべての人々に寄り添う心を持ち続けること。

この思いとともに、わたしたちの挑戦はこれからも続きます。

**KIRIN**  
*Pharma*

[www.kirinpharma.co.jp](http://www.kirinpharma.co.jp)

## ■支■部■だ■よ■り■

## 心をひとつに大阪支部の活性化を

大阪支部連合会会長 野崎京子

猛暑だった今年の夏も終わり実りの秋が来ました。皆様、それぞれ日々の活動にお忙しいことと存じます。

さて、大阪府下には日本女医会支部が十あり、その十支部のとりまとめとして大阪支部連合会があり、会員は約100名です。大阪地区の代表として理事、監事が出ており、日本女医会の本部の運営に携わっております。川田喜代子先生が16年間の永きにわたり理事・監事を務められ、今春退任されました。現在は西嶋攝子、吉馴茂子の両先生が理事を務めております。

日本女医会大阪支部連合会は毎年1回総会を開いてきました。しかしここ20年ほどは、本部の活動に対する協力や大阪府としての独自の活動をしておりませんでした。事情はいろいろあったようです。一つには大阪には府医師会活動にも積極的に参加している「大阪府女医会」があり、そこに女医の活動が集約されたのかもしれませんが。日本女医会大阪支部連合会としては、いつまでもこのままというわけにはいきませんので、私が大阪十支部のまとめ役となった平成17年の「病児保育ワークショップ」大阪開催に引き続き、平成19年は「たんの吸引を安全に行なうための講習会」を大阪で開催することになりました。9月30日にむけて現在十数名の先生方が準備にかかわっております。手作りの部分も多く試行錯誤を繰り返しておりますが、その間、本部の役員の先生方及び事務局の方の暖かいご協力を頂き心より感謝しております。会の運営が多少拙くても、当日ご参加の皆様のお役に立ち喜んで頂ける会になるよう心より願っております。

ところでこの間の活動を通じて、今後の大阪における日本女医会の地域活動活性化のためにネックとなっていると思われる点がいくつかありました。一部を列挙してみます。①日本女医会としての予算がなく、定期的に役員会（本部評議員・予備評議員）が開けず、一部の有志のみの活動になってしまうこと、②広報が不十分で今回のような価値ある日本女医会活動も一般会員には伝わらないこと、③有志の先生方は大変忙しい中での日本女医会活動ですが、コミュニケーション不足と指示系統がはっきりしないため、ことが二転三転しエネルギーの無駄使いになること、④地域に他の大きな女医会組織がある場合、日本女医会活動

との住み分けまたは協力関係が難しいこと、などがあげられます。

今後少しずつ改善しながら、大阪の地において伝統ある日本女医会の活動が活性化していくよう努めていきたいと考えております。

私の大学  
群馬大学

群馬支部 安部由美子

群馬大学は、赤城、榛名、妙義の上毛三山や、尾瀬国立公園、谷川岳、草津温泉などを背に、関東平野の北寄りの地に点在する荒牧キャンパス（前橋市：教養教育棟、教育学部、社会情報学部）、昭和キャンパス（前橋市：医学部、附属病院、生体調節研究所）、桐生キャンパス（桐生市：工学部）、太田キャンパス（太田市：工学部）から構成されています。自然の豊かな土地で、キャンパス内に居だけでも、春先の空っ風一書類や検体を手に移動する時は、要注意一や、夏の空から直線的に落ちてくる雷一無停電装置の無い機器で影響大一などを体験できます。けれども、昭和キャンパスから東京駅まで2時間弱で着きますので、県外の方が誤解されている程交通の便の悪い土地ではありません。

群馬大学は中規模総合大学としての利点を生かした進取の気象に富んだ大学です。明確な目的意識を持ち指導性を発揮できる多様な学生の採用を目的とした医学科への学士編入は、平成10年度に始まり毎年15人の学士を受け入れています。平成16年度には医学科プログラム「良医養成のための体験的・実践的専門前教育」が文部科学省の「特色ある大学教育支援プログラム」に採択され、チーム医療実習、医の倫理学講義を含むカリキュラムが実施されています。また、本年度採択された医学部保健学科プログラム「多専攻学生による模擬体験型チーム医療実習」は来年度からは医学科の学生も加わった実習となります。大学院教育では平成17年度に「魅力ある大学院教育イニシアチブ」に「大学院医学教育の双方向型展開と実践」が採択され、これは、本年度採択の「先端的医学系大学院教育の拡充・展開と実践」へと発展しています。生体調節研究所を中核とした21世紀COE（center of excellence、卓越した研究拠点）プログラムが平成14年度から平成18年度に進められ、本年度には生体調節研究所、大学院医学系研究科、

および秋田大学との共同によるグローバル COE プログラムが採択されています。更に「地域医療等社会的ニーズに対応した質の高い医療人養成推進プログラム」、「がんプロフェッショナル養成プラン：北関東域連携がん先進医療人材育成プラン—重粒子線照射装置を中心とした集学的がん治療法の確立・普及を目指して—」が本年度採択され遂行されています。昭和キャンパス内の風景も毎年変化しています。昨年度には、附属病院の新棟と保育所が完成し、現在、

重粒子線照射施設が建設中です。群馬大学は昭和24年に国立大学として設置され平成16年に国立大学法人に移行した大学ですが、現在、青春期の躍動感を日々実感できる大学です。

ところで、国際女医会会長の平敷淳子先生は埼玉医科大学にご栄転される前に当学で教鞭をとられ、当時、先生のご指導を受けた学生は、その後、国内外に勇躍、活躍しています。北関東の地より国際女医会の成功をお祈りしております。



書評

## どうしよう……子どもの救急

社団法人日本女医会編 200円

子どもの扱い方が分からない親が増えている上に、核家族化で相談できる相手もいないので、子どものぐあいが悪くなったら夜間の救急診療に受診することになる。だから、夜間の救急指定病院に子どもが溢れてしまいます。

その90%以上は、救急受診の必要がない子ども達といわれています。

大した病気でもないのに救急を受診することを少しでも減らそうと、いろいろな工夫がされていますが、どうしても実効性ができません。

最近、子ども救急対応のための冊子が相次いで公表されています。各地で独自の工夫をした冊子を作成して、配布されるようになりましたが、小児科医が作るとどうしても説明が多く入るので、保護者の皆様がよけいに目を通さなくなるという難点もありました。

日本女医会が、小児科女医、保育園園長、看護師の皆様と一緒に考えて、作成した冊子ができあがりました。

救急を受診する頻度の高い子どもの症状別に「大至急受診しましょう」「なるべく早く受診しましょう」「少しようすをみましましょう」の3段階に分けて、3～5項目の箇条書きに記載されています。さらに「家庭での対応」と続いて、いざという時に家で初期の対応をどうするかが書かれています。

各段階が箇条書きになっていることは、親としては見たときに簡単に判断ができることとなりますので、非常に助かるでしょう。さらに発疹を出す疾患について、写真が掲載されていますので参考になります。

保健所とか医療機関で広く配布していただければ、



かなり夜間の小児救急外来の受診者が減少すると期待できる冊子です。

ご希望がありましたら、社団法人日本女医会（電話 03-3498-0571 FAX03-3498-8769）へ、ご連絡をお願い申し上げます。

日本小児科医会会長 保科 清

## 臨床医が知っておきたい 女性の診かたのエッセンス

荒木葉子（編集）  
医学書院 3,990円

この本は日本女医会理事の荒木葉子先生が37名の執筆協力者とともに、「女性の診かたのエッセンス」をまとめた医学書です。執筆者のうち実に62%の人が女性であるという特別な本であります。

はじめに荒木先生は次のように書かれています。女性のライフスタイルは大きく変化しました。初経は早まり、性行為開始年齢は早くなり、就業率が高まり、未婚率が上昇し、妊娠・出産率は低下し、寿命は延びています。外食が増え、運動が減り、タバコやアルコール摂取率が高くなり、家庭や仕事でのストレスの内容も変化しました。

「性差医学・医療」が1990年ごろより注目されるようになりました。性染色体や性ホルモンに伴う生物学的な性差に加え、社会的な性差により、疾患の種類、時期、症状、診断、治療、予後が異なってきます。

性差の視点を入れながら、総合的に診るためのガイドブックとして使って欲しいということです。

本の構成は

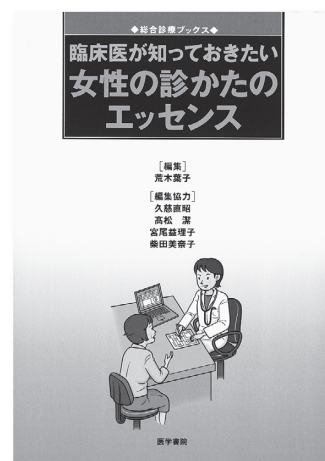
- 第1章 女性のライフサイクルと健康
  - 第2章 月経・女性ホルモンに関する基礎知識
  - 第3章 女性のがん・検診に関する問題
  - 第4章 女性のセクシュアリティに関する問題
  - 第5章 女性にこんな症状がみられたら？役立つ診療のエッセンス
  - 第6章 メンタルな問題
- 付録

産婦人科以外の医師でも、興味を持って読める医学書で読んでいくと知識の整理ができるだけでなく、こういうことであつたかと理解を進めることができます。女性の身体、精神の変化の微妙さはまさに神の作りたもうた最高傑作と思われま

す。筆者が特に興味を持ったのは、女性の画像診断で、CT検査、MRI検査でとてもはっきりと病変がとらえられていることです。

医学はどんどん進歩しているので、常に新しい医学書に目を通す必要がありますが、この本は『女性を診る』という視点でよくまとまって書かれていますので、何科の先生でも楽しく読めて理解を深めることができますので、ぜひ一読をおすすめします。

理事 大坪公子



## 社団法人日本女医会 (((理事会議事録)))

日時：平成19年6月23日(土)  
午後3時00分  
場所：(社)日本女医会・会議室  
出席者：小田、鹿田、角田、山崎(ト)、荒木、大塚古賀、坂本、澁谷、高原、田中、塚田、対馬、津田、濱田、藤川、村田、森川、山崎(康)、山本(蒔)、吉馴、中井、松井 (以上23名)  
欠席者：大坪、内潟 西嶋、山本(纈) (以上4名)

庶務報告  
会計報告  
各部報告

### 議題

1. 52回総会の反省について
2. 次期総会準備について
3. 国際会議費用について
4. 資金運用について
5. 役員歓迎迎会について
6. ブロック出向について
7. 調査研究協力依頼について
8. 女性医師支援委員会について
9. 市民公開講座申請について
10. その他
  - ・女性と仕事の未来館から「健康促進事業」への協力依頼について
  - ・職員夏期賞与について

4月理事会の議事録を承認

### 【会長挨拶】

1. 総会開催に際しての皆さんのご協力に感謝。
2. 来年でこの執行部の一期が終わる。より良き来年の総会を目指して今年の総会を振り返り反省

点などを整理しておきたい。

3. この1年会の運営に携わってきたが、分からないこと、会務の多さに驚いている。役員のご共通認識の範囲を広げたい。
4. 日本は縦社会、階層社会である。女性は男性の階層に組み込まれ、分断され細分化され、常に男性の作る地位、権力、人間関係の階層の従属的な位置の中に組み込まれる。医師としても医局や、出身大学、友人関係などで階層化され、分断された階層の中の従属的な関係あり、それから自由になるために日本女医会が役に立ちたいを思う。
5. 今年は女性の地位向上、活性化を重点にして活動を展開したい。各自のアイディアと行動力を期待する。

### 報告事項

1. 庶務報告 古賀理事

(1) 4月22日開催の第10回ブロック別懇談会(於:津市)の報告(古賀理事)

(2) 6月17日青森支部総会出席の報告(小田会長)

## 2. 各部報告

・事業部 (坂本理事)  
5月19日評議員会の前に部会を開催し、アンケートの取り扱いについて検討。内部資料として保存する。また女性医師支援や「本部と支部の活動」についても今後検討する。

・渉外部 (山本(蒔)理事)  
本日18時より開催の国際婦人年連絡会・環境委員会に出席する

・広報部 (吉馴理事)  
日本女医会誌191号の割付会議を7月6日に開催予定

3. 4月、5月会計報告(濱田理事)承認

## 4. 委員会報告

・子育て委員会 (鹿田副会長)  
こどもの救急マニュアル本を増刷し200円で販売。販売に協力要請。今年度もミニ講演会を各地で開催予定。次回委員会は7月7日に開催。埼玉県より石原委員長に講演の依頼があった。

・長寿社会福祉委員 (松井監事)  
6月9日名古屋市で開催した「第4回たんの吸引講習会」の報告。7月14日に仙台で第5回を開催。外部評価委員等を含めた今年度の計画を報告。地方で開催の場合、特に講師依頼に関しては一貫した見解を持ってほしいと古賀理事より要請があった。

## 5. その他

・日中医学協会について  
小田会長に評議員に就任依頼がある。会費の関係上、個人会員として受諾する。

・佐藤千代子先生を偲ぶ会について (澁谷理事)

6月24日11時よりウェスティンナゴヤキャッスルホテルで行う。

・大阪府女医会六十周年記念式典開催について (吉馴理事)

6月24日18時より大阪帝国ホテルで開催。小田会長、角田副会長、平敷次期国際女医会議会長が出席。

・福島支部の件 (鹿田副会長)  
支部長が高齢のため辞任されるので、後任候補の推薦を要請された旨の報告

## 協議事項

(1) 52回総会の反省について

(鹿田副会長)

・青森支部長提出の動議「支部助成」について検討。一人につき200円以上の助成は財政的に不可能であるし、名称を含めて事業部で素案を作り再検討する。「市民公開講座に対する助成」が支部活動に利用できることを知らせる。

・時間配分はよい。

・評議員は総会では執行部側となり質問はできないことを徹底する。

・発言者の登壇の仕方も含め「会計監査報告」の順番等、シナリオを作り直す。

・吉岡弥生賞受与の順番は先に学術部門、次に社会部門とする。

(2) 次期総会準備について

(鹿田副会長)

・3月理事会で決定された「17日17時より評議員会、19時より懇親会、18日11時から総会・選挙、14時から講演会」で行う。ランチョンセミナー開催は時間の関係上不可能。「会長、副会長の互選」の間に昼食として軽食を用意する。

・講演会演者：何名か候補が挙げられた。先ず藤川理事推薦の方へ交渉する。

・懇親会の演者：検討中

・懇親会の来賓：女性団体等、渉外部で候補を挙げる。

・冊子形式のプログラムは作らず簡単なものとする。お土産は国際女医会議の際に作ったピンブローチにする。

(3) 国際会議費用について

(鹿田副会長)

・今まで国際女医会議出席の場合、会長とナショナルコーディネーターの旅費を補助していたが、今後は日本女医会の仕事を発表するときに限り、最低料金の旅費を補助することにする。

(4) 資金運用について (森川理事)

・低金利のため特別会計「吉岡弥生賞会計」が利息だけでは運用できなくなる見込み。国際女医会議記念事業基金も併せて少しでも利息の多い運用を考えたい旨、提案があった。リスクを負うべきではないという反対意見もあり、ローリスク・ローリターン、元金補償のものを探す。

(5) 役員歓送迎会について

(古賀理事)

・監事の交代があったので食事会を開催したい旨の提案があり、次回理事会後に開催する。

(6) ブロック出向について

(古賀理事)

・富山支部が支部会を開催し前向きに検討してくれることになった。

(7) 調査研究協力依頼について

・お茶の水女子大COE研究員より「女性医師の仕事と暮らしに関する調査」アンケートへの協力依頼があった。しかし内容があまりにも女性医師の考えとかけ離れ返答できないことが多いため、お断りする。

(8) 女性医師支援委員会について

(山本(蒔)理事)

庶務部：澁谷理事、学術部：内湯理事、会計部：高原理事、広報部：対馬理事、事業部：坂本理事/津田理事、渉外部：荒木理事、藤川理事、山本(蒔)理事が委員に決定。第1回委員会を理事会終了後に開催

(9) 市民公開講座申請について  
(坂本理事)

- ・福岡支部より市民公開講座に申請があった。開催日：8/25,8/26,9/1,9/2、テーマ：「ピアカウンセリングスキルを生かした性教育普及のための公開講座」
- ・日本女医会共催として10万円の助成を決定。

## (10) その他

- ・女性と仕事の未来館から「健康促進事業」への協力依頼について(荒木理事)。書面で依頼文をもらい、次回理事会で検討する。
- ・慶應母親学生会から夏季スクーリング期間中の保育活動、在宅緊急医療相談の要請があった場合は協力する。
- ・職員夏期賞与について2ヶ月支給とする。

以上

日時：平成19年7月22日(日)  
午後2時00分

場所：京王プラザホテル

出席者：小田、鹿田、角田、山崎(ト)、荒木、大塚、大坪、古賀、坂本、澁谷、田中、塚田、西嶋、濱田、藤川、村田、山崎(康)、吉馴、中井、松井(以上20名)

欠席者：内潟、高原、対馬、津田、森川、山本(續)、山本(蒔)(以上7名)

庶務報告

会計報告

各部報告

議 題

1. 資金運用について
2. 2008年定時総会について
  - ・予算について
  - ・講演会講師について
3. 女性と仕事の未来館からの依頼について

## 4. 女性医師支援委員会の活動について

## 5. その他

6月理事会の議事録を承認

## 【会長挨拶】

1. 「佐藤千代子先生を偲ぶ会」に出席、佐藤先生の偉大なる足跡を感じた。
2. 大阪府女医会六十周年記念に出席、敗戦直後に女医会を作り、これまで継続して来た先輩の熱き思いを感じる。それを無駄にしないように活動をしていきたい。
3. 宮城県医師会で座談会「女性医師に聞く」があり、各地の女医会会員にも伺い女性医師は地歩を固めつつあるのを感じる。
4. 医師不足を背景に女性医師の働き方が問われている。宮城県でも医師の復職支援について動きつつあるが大学の協力なしには難しい。初めに内科医として復職するプログラムで動き始めてはどうかと考えている。
5. 今春、多くの病院が新卒看護師を雇用し「7対1」体制の整備をしたが、日経新聞朝刊に、厚労省は「7対1」看護を患者の重症度により認めるという記事が載った。厚労省の方針が簡単になるのは迷惑である。
6. 学術助成を受けられた青森支部、柳町幸会員は3年前に学術助成金制度の存在を知り、日本女医会に入会、そして学術助成金を受けられた。その計画性に感服。

## 報告事項

1. 庶務報告 澁谷理事
  - ・6月23日、国際婦人年連絡会環境委員会に出席の報告(荒木理事)
  - ・6月25日、「塩崎内閣官房長官・高市内閣府特命担当大臣(少子化・男女共同参画)との懇談会」に出席の報告(松井監事)

・「埼玉支部総会、宮城支部総会」に出席の報告

(小田会長)

・第17回全国病児保育研究大会in福岡2007」に出席の報告(坂本理事)

・「2007年度・国連NGO国内婦人委員会定例総会」に出席の報告(藤川理事)  
「日本・中東女性交流」の名称が「日本・アラブ女性交流」に変更。

## 2. 各部報告

・広報部 7/6割付会議を開催。7/25に会誌発送予定(山崎(康)理事)

## 3. 6月会計報告(濱田理事)承認

## 4. 委員会報告

- ・子育て委員会(鹿田副会長)小児救急を扱っている病院と消防署に対するアンケートを作成し、直接訪問して配布している。理事の協力を要請。
- ・長寿社会福祉委員会(藤川理事)

7月14日仙台市医師会館で開催した「たんの吸引を安全に行うための講習会第5回」の報告。外部評価委員4名を加え、7月25日に委員会を開催。

## 5. 日本医師会男女共同参画委員会報告(大坪理事)

7月28日に横浜で開催の「第3回男女共同参画フォーラム」の紹介

## 6. その他

なし

## 協議事項

1. 資金運用について(角田副会長)(資料1)を基に現在の日本女医会の預金状況の説明があった。低金利のままでもよく、リスクの少なくとも金利が多少でも良いものへの預け入れの変更も視野に入れ、良い貯蓄方法を調査してほしいとの要請があった。
2. 2008年定時総会について

・予算について (澁谷理事)  
 (資料2)を基に説明があった。可能な限り出費を少なく開催。

・講演会講師について

(藤川理事)

先月理事会で希望のあった「シスター渡辺」より講師承諾のお返事を頂いたとの報告。講演のテーマに希望のある場合は藤川理事に提出する。

3. 女性と仕事の未来館からの依頼について (荒木理事)

女性と仕事の未来館より「平成19年度「健康促進事業」実施にかかる協力依頼」があった。未来館では広報の希望があり、改めて9月理事会に提出される。

4. 女性医師支援委員会の活動について (荒木理事)

・委員会議事録を基に第一回委員会で討議された内容、「女性医師支援委員会」の理事会での位置づけ、そして提出さ

れた(7案)から具体的に可能な行動を検討した。委員会に角田副会長が入ることが決定された。

・ネットの充実が一番という意見が多く、以前に実施した調査等を集約してホームページに載せる事、そして他の団体とのリンクの充実も検討された。予算面も考慮し、内容の充実を図ることが許可された。

・毎回の理事会で委員会からの協議事項を提出する。

・お茶の水女子大CEO研究員からアンケート協力の再依頼が来た。角田副会長、荒木理事、藤川理事が早急に面談することに決定。

5. その他

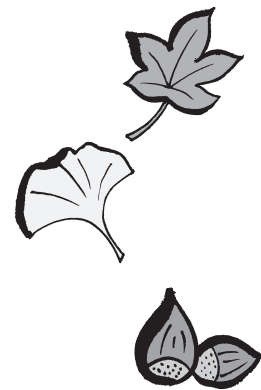
・新潟中越沖地震義援金について  
 ボランティア預金より柏崎災害対策本部へ義援金30万円を

送ることに決定。

・鹿田副会長より、収益事業として「軽井沢セミナー」開催の提案が石原前副会長からあったとの報告。具体案を作成する。

・東京女子医科大学・女性医学研究者支援室より「『女子研究者支援モデル育成』採択4女子大学合同シンポジウム」への後援依頼があり、承認する。

以上



会員動静 (2007年9月15日現在)

**新入会** 飯村 昭子 (昭62年卒) 栃 木  
 岡 聖子 (昭63年卒) 三 重  
**入 会** 長谷川晃子 (昭62年卒) 青 森  
 横内 載子 (昭60年卒) 青 森  
 花岡由美子 (昭60年卒) 練 馬  
 西川 恵 (昭51年卒) 東女医学内  
 大柳小百合 (平3年度) 三 重  
 下野 一子 (昭61年度) 三 重

**退 会 故** 14名  
 長屋恵美子 (平3年度) 三 重  
 吉田 晴子 (昭53年度) 大 阪 第2  
 福本 敏子 (昭50年卒) 大 阪 第3  
 土屋 臣子 (昭14年卒) 荒 川  
 松村 鉄子 (昭5年卒) 新 宿  
 鳥海千枝子 (昭18年卒) 練 馬  
 野中 久子 (昭16年卒) 神 奈 川  
 旭 妙子 (昭17年卒) 愛 知

編集後記

今回の特番は第27回国際女医会議です。  
 平敷 MWIA 会長・小田会長はじめ出席された会員諸姉の現地報告を読みますと、あたかも、自らガーナの地に居合わせたような臨場感溢れた記事でした。日本の秩序整然とは正反対の事態が待ち受けていたようですが、それを乗り越えての講演・討論・ポスター展示・見学・観光とパワフルに活動なされている様子が強い印象を与えてくれました。参加された MWIA の熱い心情が、1人でも多く次世代の会員に継承されてゆくことを願うばかりです。委員会活動も全国規模となり、いまや全国の会員の協力なしでは出来ないことです。この人のつながりを大切に育てたいと願っています。この会誌を是非お手にとって読まれますように。(広報部 山崎康子)

日本女医会誌

復刊第192号 2007年10月25日発行  
 編集人 大坪公子  
 発行人 小田泰子  
 制作 あづま堂印刷製

発行所 社団法人 日本女医会  
 〒150-0002 東京都渋谷区渋谷2-8-7 青山宮野ビル  
 TEL 03-3498-0571 FAX 03-3498-8769

http://www.jmwa.or.jp  
 e-mail : office@jmwa.or.jp